

総 評

総合はやや難しかったようですが、全体としてはほぼ標準的な難易度の出題でした。

入試本番まで残りわずかとなりましたが、ここからはあまり手を広げず、実戦的な問題を解きながら、重要事項の定着をはかりましょう。今回のようなテストにしる、問題集にしる、できなかったところや、知識があやふやなところは、そのままにせず、見直しや解き直しを行うことが大切です。ミスや間違いはチャンスと考え、実力をのばすきっかけにしてください。

第1回の試験でも書きましたが、入試では「満点をねらう」のではなく、「解ける問題を確実に得点する」ことがポイントです。志望校の出題傾向やレベルをつかみ、弱点の補強や重要事項の確認などの準備をしっかり行って下さい。

国 語

標準的な出題でした。

㊦は、全体によくできていましたが、問一と問七は難しかったようです。問七は「手嶋にうらやましいと思われることを知った脩の気分」と「そのような気分になった理由」の二点をまとめることに注意しましょう。㊧は、漢字の書き「快挙」が難しかったようです。「カイ」と読む別の漢字(「改」「開」など)を書いた答案が散見されました。問四を得点できなかった方は、敬語を復習しておきましょう。㊨は、全体に難しかったようです。特に問三の㉔の書きぬき、問六の記述の得点率が低くなりました。繰り返されている表現に注意して、もう一度読んでみましょう。長い記述の解答は、誤字脱字、設問の条件の見落としがないかよく見直して、得点アップを目指しましょう。

算 数

標準的な出題でした。

①と②では、基本的な計算などでのとりこぼしが目立ちました。間違えた問題はしっかり復習しましょう。④の問2のような応用問題は、立体の見方などを工夫すると解くことができます。もう一度よく見直しをしてください。⑤の変わり方は、三角形や台形の面積の関係を見つけることが重要です。点の動き方を確認するようにしましょう。⑥のように、グラフを使った速さの問題は、入試でよく出題されます。得点率が低くなっていますが、どれもできるようにしておきたい問題です。道のり・速さ・時間の関係をしっかりおさえましょう。

入試に向けて大切なのは、問題の見方や考え方です。間違えた問題を復習するときには、じっくり読んで「考え方」を理解するように心がけましょう。

社 会

やや難しい出題でした。

①は、(3)のカタカナ5字指定の問題で「リサイクル」という誤答が多く見られました。社会科では時事問題などでもカタカナの用語が出題されることがありますので、意味のわからない用語は調べておきましょう。③は各県の特徴を題材とする出題でした。入試でも県ごとの特徴などが出題されることがありますので、苦手な人は産業や自然などを県ごとにまとめておきましょう。④は、(7)の得点率が特に低くなりました。歴史は、人物だけではなく、どのような流れでできごとや事件がおこったのかをおさえることも重要です。⑤は、(2)②と(4)の得点率が低くなりました。間違えた人は、国や地方自治体がどのような仕事を行っているのかを確認しておきましょう。

理 科

やや難しい出題でした。

①は、どれも基本的な内容の出題でしたので、どの問題も得点率が高めになりました。②は、(3)まではよくできていましたが、(4)が難しかったようです。③は、会話文から考え方や計算の方法を読み取る必要があり、読解力と思考力が試される問題でした。(4)の得点率は低くありませんでしたので、考え方は理解できたものの、㉔や㉕の角度を求めるところでつまづいた人が多かったのではないのでしょうか。④は、(3)と(4)が難しくなりました。入試では難しいこの問題がよく見られます。しっかりと対策しておきましょう。⑤は、全体によくできていました。間違えたところがあれば復習しましょう。⑥(4)を間違えた人は、メダカとヒトのたんじょうについてもう一度確認してください。

総合(適性)

親しみやすい題材が多く取り組みやすい出題でしたが、配点の大きな記述式解答の問題の得点率がふるわず、平均点は低めとなりました。記述式の問題では、問題文や資料の読み取りが不十分な解答が目立ちました。例えば、②の(1)は、「流れ着いたペットボトルの製造国別の割合」の地域ごとの特徴を書く問題でしたが、「国別のペットボトルの生産量」や「マイクロプラスチックの量」などとして答える誤りが見受けられました。また、④の(3)②では、「夏に出荷するよりもたくさん売れる」など、資料から読み取れない自分の意見を書いたものも散見されました。記述式解答の問題は、国語と同様、問いの内容を正しくとらえ、問いの条件にあった形で答えることが大切です。内容が簡単でも油断せず、問題文をしっかりと読み込むことを心がけて下さい。